

【学会賞・学術賞】



遠藤 和人 様

(国立研究開発法人国立環境研究所)

【奨励賞】



KABIR MAHMUDUL様

(秋田大学)

このたびは、栄誉ある奨励賞を賜り、心より御礼申し上げます。私はこれまで、汚染土壌の効率的な除染を目指し、水平電極式動電法（FEM-EK法）の研究を進めてまいりました。本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた先生方、共同研究先の三和テッキ株式会社の皆様、ならびに学生の皆様に深く感謝申し上げます。また、科学研究費助成事業（18K11690、22K12423、25K15489）によるご支援にも御礼申し上げます。今回の受賞を励みとして、FEM-EK 法のさらなる発展と実用化に向け、研究に精進してまいります。

【功労賞】

NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議 様



この度は、猪苗代湖の環境保全活動に対し、功労賞を賜り、誠に有難く、心より感謝申し上げます。かつて「水質日本一」と称された猪苗代湖も、近年は水質環境に課題が生じております。当法人は、その美しい湖を次世代へ引き継ぐため、県の協議会活動や地元国際ロータリークラブの事業を受け継ぎ、設立されました。昨年、設立 10 周年を迎え、さらに猪苗代湖がラムサール条約湿地に登録されたことは、大きな喜びであると同時に、新たな責任でもあります。今後は、漂着水草回収、調査研究、環境教育に加え、生物多様性の保全と「Wise Use（賢明な利用）」を念頭に、産官学・地域の皆様と連携し、世界に誇れる猪苗代湖を次世代へつないでまいります。（受賞者代表：藤田 豊 様）

【功労賞】

公益社団法人全国消費生活相談員協会
「ふくしまの食相談センター」 様



この度は、功労賞をいただき、心よりお礼申し上げます。公益社団法人全国消費生活相談員協会では、2021 年 3 月に「ふくしまの食相談センター」を開設し、福島県産品の風評被害払拭に向けた活動や情報発信を続けてきました。学会の企画展示では、私どもの活動の 1 つであった「高校生から学ぶ ふくしまの今とこれから」と題する福島と東京の高校生・大学生による学習発表・交流会について報告させていただきました。次代を担う福島の高校生の復興に向けての熱い思いや活動、県外の高校生・大学生の意見交換はとてもすばらしく、貴重なもので、その一端を皆様にお伝えする機会をいただきましたことを、この場をお借りして深くお礼申し上げます。2026 年 3 月末で「ふくしまの食相談センター」は終了しましたが、このような栄誉ある賞をいただき、担当者一同感謝しております。当学会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。（受賞者代表：澤木 佐重子 様）

【調査研究・技術開発賞】



辻本 宏 様

(鹿島建設株式会社)

このたびは、調査研究・技術開発賞を賜り、鹿島建設・京都大学の関係者一同、誠に光栄に存じます。本成果は、環境省および中間貯蔵・環境安全事業株式会社の実証事業として、国立環境研究所をはじめとする有識者の方々、関係機関の皆様の多大なご指導とご支援のもとで得られたものです。皆様に心より御礼申し上げます。今後も産学官で綿密に連携し、除去土壌等の減容化、復興再生利用および県外最終処分に向けて、科学的根拠に基づく安全で信頼される技術の構築に取り組み、福島の環境再生に貢献してまいります。

【功労賞】



今井 啓祐 様

(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)

このたびは功労賞を賜り、大変光栄に存じます。これまで、除去土壌等の減容・再生利用に関する技術開発や実証事業に携わるとともに、「減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク」などを通じて、技術的な知見を広く社会へ発信する取組に努めてまいりました。本賞は、これまで一緒に取り組んできた研究者、事業者、行政機関をはじめ、多くの関係者の皆様との協働の成果であり、深く感謝申し上げます。今後も、中間貯蔵事業で培われた知見や経験が、福島の復興と県外最終処分に向けた取組に活かされることを願っております。

【功労賞】



福島県環境創造センター 様

この度は、功労賞を賜り、心より御礼申し上げます。福島県環境創造センターは、開所以来、多くの皆様の知見をいただきながら、原子力災害からの環境の回復と創造を担う拠点として、モニタリングや、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流に取り組んでまいりました。今後とも、関係機関と連携した取組を着実に進めるとともに、放射線やふくしまの環境について学ぶことができる交流棟「コミュタン福島」において分かりやすい情報発信に努め、福島県の環境回復と持続可能な社会の実現に貢献してまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。（受賞者代表：郡司 博道 様）

【功労賞】



山本 貴士 様

(国立研究開発法人国立環境研究所)

このたびは令和 8 年度功労賞を頂戴できることになり、誠にありがとうございます。2021 年 2 月に副編集委員長を拝命して投稿論文の審査等に携わり、同年 9 月からは編集事務局の体制変更に伴い事務局業務（学会誌の編集、印刷会社とのやりとり）も引き受けることになりました。この 3 月に退任するまでに、第 9 巻第 4 号から第 13 巻第 4 号までの 20 号の発行に係わってきました。前任の安原先生からは、「編集委員の最大の仕事は投稿論文の勧誘である」と言われていましたが、副編集委員長に加えて編集事務局業務を背負い込んでしまうと勧誘までなかなか手が回らず、投稿論文数が寂しい状況にあったことは、後悔の念に堪えません。その一方、学会に貢献できたといえ、長年の懸案であった学会誌の電子化、投稿・審査システムの導入と J-STAGE 移行を達成できたことであり、今回の受賞もこの点を評価頂いたものと考えております。学会誌の電子化により、学会内外の皆様に投稿・閲覧しやすい環境をご用意できたと思いますので、研究成果の投稿をご検討頂ければ幸いに存じます。この度は誠にありがとうございます。





